

ユニフォームマークのAI提案モデル特許化事業

事業者名	株式会社協同
所在地	児島下の町9丁目12番コ2号
主な業種	縫製副資材卸売業
事業概要	生成AIと蓄積デザインでマーク提案を自動化し、特許で差別化された提案力を保護。独自のユニフォーム資材提供体制を構築。
支援機関	児島商工会議所



従来の課題
「提案属人化と非効率の構造」

当社は、学生・企業ユニフォームに用いられる副資材の提案業務において、長年の経験と感性に基づく熟練デザイナーへの依存が常態化しており、属人性が大きな課題となっていた。特に、顧客の校風や地域性を反映した提案には高度な判断が求められ、業務の標準化や再現性の確保が困難であった。

また、学校制服のモデルチェンジに際しては複数案を提示する必要があるが、採用されるのは1案のみであり、残る多数の不採用案にかけられた工数が経営資源の無駄となっていた。

加えて、近年のデザイン品質の高度化により、人的負荷や育成コストも増大している。このような構造的課題を解決するため、再現性と効率性を両立した提案体制の確立が喫緊の経営課題である。

デザイン生成の自動化
「生成AIによる提案業務革新」

この課題に対応するため、当社は生成AIおよび自然言語処理（NLP）を活用したマーク提案の自動化システムを構築している。約5万点の蓄積デザインデータと、顧客属性（業種・校風・地域性）に基づくプロンプト生成機能を連携させることで、AIが即時に複数案を生成し、提案の属人性を排除するとともに品質とスピードの向上を実現する。

本システムは、提案された画像をベクターデータへ自動変換し、刺繍・プリント加工設備へと接続する一貫処理構造を備えている。

さらに、提案結果や修正履歴を蓄積・学習する仕組みを含め、当社の営業提案から製造までを一体で担うこの仕組み全体を、**製造連携型ビジネスモデル特許**として出願する計画である。本申請では、その**知的財産権取得にかかる費用を補助対象とし、事業の制度的基盤の確立を図るものである。**

市場性・成長性と経営課題の解決
「市場変化対応と持続成長基盤」

制服市場は、LGBTQ対応や多様性の尊重に伴い、画一的な詰襟・セーラー服からブレザー型への移行が進行している。これにより、学校の個性や文化を反映できるワッペンやネームの重要性が急速に高まっている。

また、制服メーカー各社が基本仕様を共通化する一方で、付加価値を副資材で表現する流れが顕在化しており、提案スピードと表現力が競争力の核心となっている。本事業の導入により、提案作成時間は40%短縮され、年間採用数も倍増する見通しである。

さらに、属人化の解消により若手の早期戦力化が可能となり、教育負荷や人材リスクの軽減にも資する。今後はクラウド化・外販展開によって、新たな収益モデルの構築と事業の多角化を進め、生成AIを活用した提案・生産一体型の新たな産業インフラとして、当社の持続的成長を支える柱とする。